

肝障害乳児のビタミンK₁の吸収

国立岡山病院小児医療センター 駒 沢 勝

これまでの研究は、乳児ビタミンK (Vit. K) 欠乏症の発症に、Vit. Kの消化管からの吸収障害が一役を演じている可能性を強く示唆している。他方、本症の患者に、軽度の肝障害が認められることが多く、しかもこのような症例もVit.Kの通常の治療量によく反応する。つまり、軽度の肝障害はVit.Kの吸収障害を介して本症の発症に関与していると考えられる。そこで肝障害乳児のVit.Kの吸収について検討した。

対象と方法

対象は、軽度の肝障害の証明された乳児Vit.K欠乏症2例、乳児肝炎、非A非B肝炎、劇症肝炎、CBAの各1例で、その経過中のVit.Kの消化管からの吸収を検討した。Vit.Kの吸収の指標にはVKを用いた。すなわち、Vit.K₁経口投与3時間後の血清濃度を液クロにより測定し、それを体重当りのVit.K₁投与量で除してVKとした。対象と同年齢の健康母乳児のVKは529±92である。

結 果

症例1(1ヶ月男)はVit.K欠乏症で、GOT、Bilirubinは入院時、軽度上昇しており、以後次第に正常化した。r-GTPは入院11日目にピークに達し以後漸減した。この間のVKは、入院3日、14日目に各々32、0と著しく低く、39日目に422と正常化した(図1)。

症例2(1ヶ月女)もVit.K欠乏症で、肝機能は入院時、ほぼ正常であったが、その直後より約5ヶ月間、GOT、r-GTP、Bilirubin等が高

値であった。VKは、最初正常(430)であったが、55日目に142と低値をとり、160日目には410と正常化した(図2)。

症例3(2ヶ月男)は、軽度の乳児肝炎で、入院1日目、18日目のVKは4、130で異常低値であった(図3)。症例4(9ヶ月男)は、非A非B肝炎で、入院後GOT、Bilirubin、r-GTPとも次第に低下した。それにともなってVKは、入院6日目:0、30日目:24、58日目:324、86日目:470と正常化した(図4)。

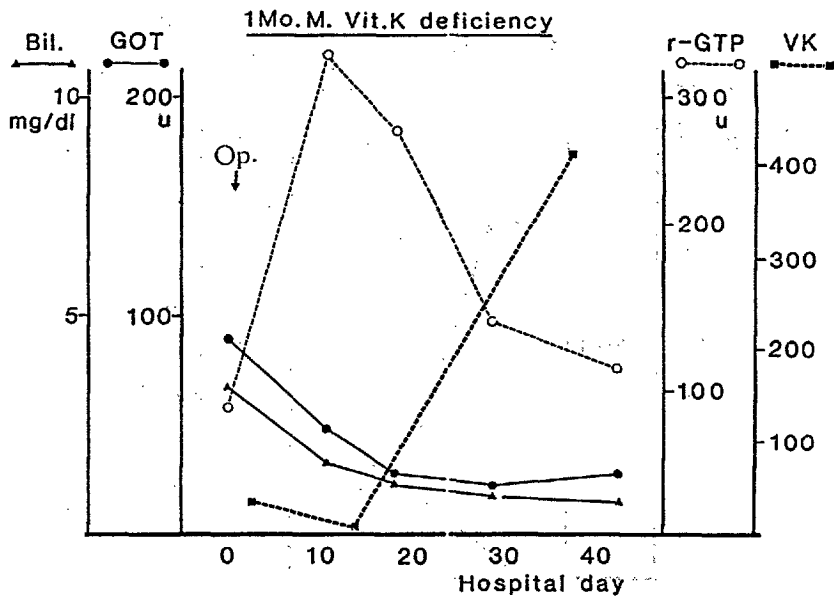
CBAの症例5(2ヶ月女)では、手術後、胆汁排泄とともに、GOT、Bilirubinは低下したが、入院3、29、46日目のVKは、各々、3、0、7と著しく低く、Vit.K₁の吸収の改善の徴候は認められなかった。

症例6(2ヶ月男)は、B型劇症肝炎で、入院49日までの3回のVKは、いずれも0で、Vit.K₁は全く吸収されなかった。

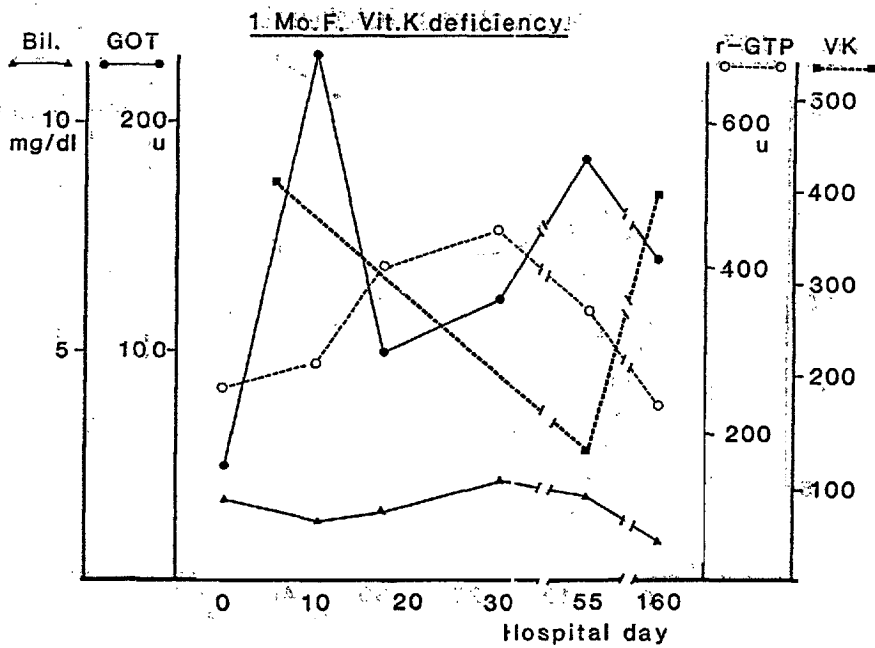
結 論

Vit.K₁の消化管からの吸収は軽度の肝障害でも、著しく低く、肝障害の回復にともなって、上昇、正常化する。CBAや劇症肝炎では、Vit.K₁はその経過中、ほとんど吸収される徴候が認められなかった。

以上のことから、乳児Vit.K欠乏症の際しばしば認められる軽度の肝障害においても、Vit.K₁の吸収は著しく低い可能性が強く、本症の発症に、軽度の肝障害によるVit.Kの吸収障害の意味は大きいと考えられる。



⊠ 1.



⊠ 2.

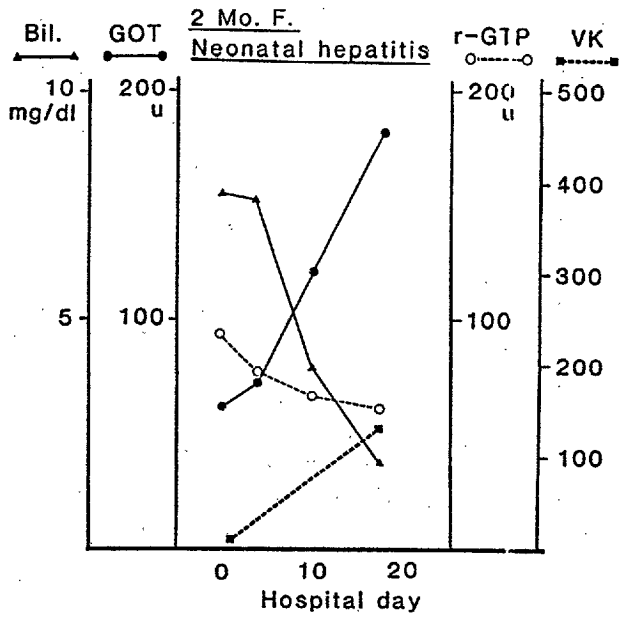


图 3.

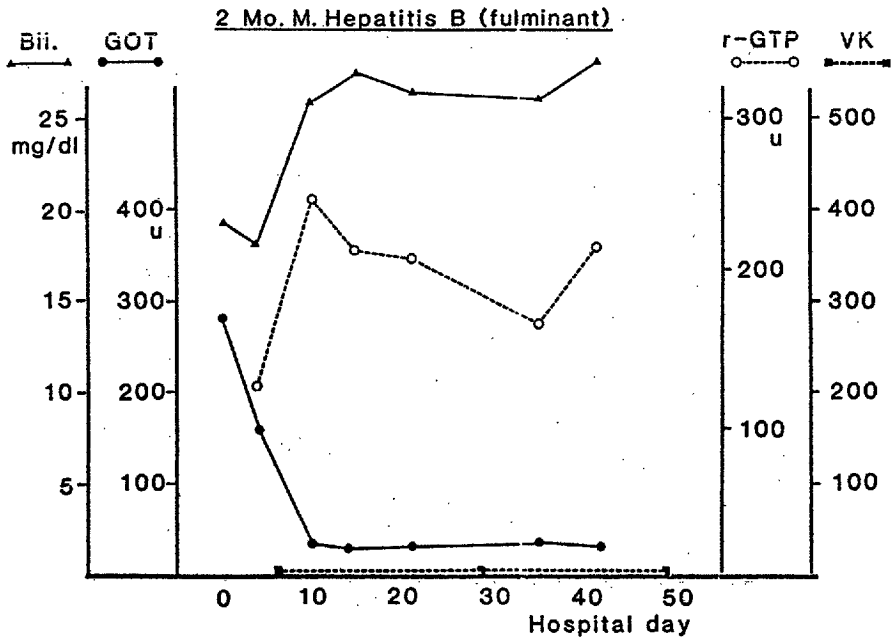


图 4.

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

結論

Vit.K1 の消化管からの吸収は軽度の肝障害でも、著しく低く、肝障害の回復にともなって、上昇、正常化する。CBA や劇症肝炎では、Vit.K1 はその経過中、ほとんど吸収される徴候が認められなかった。

以上のことから、乳児 Vit.K 欠乏症の際しばしば認められる軽度の肝障害においても、Vit.K1 の吸収は著しく低い可能性が強く、本症の発症に、軽度の肝障害による Vit.K の吸収障害の意味は大きいと考えられる。